

昭和60年度神戸市協会 役員名簿

役職名	氏名	勤務先
会長	河本 春男	ユーハイム
副会長	加藤 正信	加藤医院
〃	西邑 昌一	〃
監事	岡村 敬	三菱重工
〃	三幣 修	阪神相互銀行
理事長	一北 四郎	御影工高
常務理事	総務委員長 高見 豊	神戸市役所
技術委員長	岡本 隆英	市教育委
社会人委員長	八木 寛	神戸市役所
社会人副委員長	一北保五郎	川鉄建材
社会人(顧問)	中村 寿男	国際証券
社会人(会計)	小島 和夫	桜商会
高校委員長	沢 正彦	伊川谷高
高校副委員長	山根 由雄	北須磨高
中学委員長	市川 雄一	六甲中
中学副委員長	山名 康久	星和台中
少年委員長	伊藤 吉和	小部東小
少年副委員長	宮本 進次	川崎製鉄
審判委員長	藤田 利明	神戸高専
審判副委員長	村上 恒男	灘高
編集委員長	加藤 寛	神戸FC
理事	技術副委員長 大谷 輝彦	和井田製作所
網紀委員長	前野 正	アイ・アド
医事委員長	皆木 吉泰	皆木外科
社会人委員	鳴瀬 良一	大協
〃	古結 玄修	中央病院
〃	森川 和俊	柏井紙業
〃	中桐 俊男	明石市役所
大学委員	五島祐治郎	神戸大
高校委員	佃 幹夫	六甲高
〃	森田 哲哉	御影高
中学委員	前本勇二郎	山田中
〃	大和川洋一	山本中
〃	山名 康久	星和台中
〃	白石 幸夫	玉津中
少年委員	竹中 正明	木津小
〃	志賀 守	夢野小
技術委員	黒田 和生	滝川第二高
〃	坪井 正治	赤塚山高
審判委員	頭木 新一	頭木商店
〃	長岡 康規	神戸高



講習会卒業記念試合に出場した少年指導者

昭和60年度神戸市協会 少年指導者講習会初級コースに空前の参加者

昭和49年から神戸市協会の主催で行われている指導者講習会は6月23日から御影工高で、最近の少年たちのサッカー人気を反映してか、過去11年間で最も多い80名の受講者を集めた。熱気にあふれて、8日間にわたって開催された。最終日の7月14日には紅白試合もあり、相手の逆を取る動き、足元へ渡るパス、ロングシュートが決まるなど、講習の成果を見せた。夕刻“水源”で和気あいあいのうちに、今後の健闘を話し合い再会を約して散会した。

講習は毎回実技の後、学習を一時間、各講師によって密度の濃い内容で講義された。6月23日(日)雨 指導の目的、コーチの仕事 加藤寛 6月26日(水) サッカーの起源、広まり 志賀守 6月28日(金) 用語、反則、競技界 岡俊彦 7月3日(水)雨 子供の心理、加藤寛 柴田寛 7月5日(金) 攻撃と守備の切替 森田哲哉 7月10日(水) 短期、長期の練習計画 加藤寛 7月12日(金) 戦術理論、マークの原則 森田哲哉 7月14日(日) 実技、ゴールキーパー、卒業試合

60年度少年サッカー指導者講習会修了者名簿

氏名	年齢	所属	氏名	年齢	所属
相見 彰一	18	YMCA	田尻みち子	41	西宮フロン
麻生 恒久	42	北五葉	谷本 正紀	41	板の宮
有井 勝美	35	西宮SS	谷本 礼子	39	〃
有井香代子	37	西宮フロン	寺岡 親永	33	北五葉
安東 憲道	40	板の宮SC	中城 徳枝	33	〃
池水 宏治	21	神陵台SC	長田由美子	39	神出小
井上 隆	32	小部東	中西 壮治	41	板の宮SC
入瀬 慎一	35	平野	中野 範夫	39	浜風SC
岩垣 幸男	53	千歳SC	藤波 克輔	38	貴崎SC
岩田 紀子	45	木津バッカーズ	橋野 来一	38	板の宮
上野 明	42	東灘SS少	橋野 律子	37	〃
上原 良弘	35	つづが丘	林 幸男	60	成徳SS少
上村 昌弘	37	高倉台SC	平野 達也	38	夢野小
岡部 勇	43	ひよどり台	広部健太郎	19	神戸FC
岡部 博子	13	つづが丘	福井 元成	43	板の宮FC
奥田とき子	39	西宮フロン	藤井 修二	38	ひよどり台
小野 邦夫	41	ひよどり台	藤井 弘邦	42	神出小
小野 逸子	36	ひよどり台フロン	藤井佐和子	38	〃
大村 信彦	53	千歳SC	藤本 勇	37	千歳SC
梶登 義夫	40	神出小	淵田 一幸	25	板の宮SC

FIFA1986年を世界審判員イヤーと宣言

今年はメキシコワールドカップの年であるだけではなく、FIFAが英国4協会と共に、国際サッカー評議会の創立百周年を記念する年でもある。国際サッカー評議会は、サッカーの規則を定め実施する機関であり、その役割は百年間大変すばらしい成果とともに遂行され、今日、極寒のシベリヤでも、暑い熱のブラジル、マナウスでも、フィジの小さな島でも、限りなく広いサハラ砂漠でも全世界で、同じルールによってサッカーを楽しむことが出来る。

これらの規則を適用するために任命され、彼等がいなくてはサッカーの世界は考えられない『黒衣の男』(すなわち審判員)の労に報いるためにFIFAは、1986年を『世界審判員イヤー』と宣言することに決定した。すべての関係者、観客が50万人の『黒衣の男』の仕事を理解してほしい。彼らこそ自己を捨てて、サッカーが、国際サッカー評議会が百年前に作った道を歩むのを守ってくれている人々だからである。 — FIFA ニュースより

編集後記とおわび

昨年2月号より、約1年間「神戸のサッカー」を発行できなかったことを心からおわびいたします。

3月号より、新編集委員に林幸男氏を迎え、やっと発行にこぎつけました。林氏は、市内少年サッカーの草分け的存在である成徳少年団の代表指導者で、60年度から始めた「お母さんのサッカー教室」の指導もされています。早く元のピッチに追いつけるよう努力していますので、今後とも皆様のご声援、ご協力をお願いします。 編集委員長 加藤 寛

神戸市社会人運営会議予定 次回 3月13日(休)

3月13日、20日
いずれも18時30分から王子登山研修所。
社会人リーグに参加している各チームの代表者が必ず一人出席して下さい。

個人購読のご案内

紙紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。
〒650 神戸市中央区八幡通2-1-10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
神戸市サッカー協会 ☎078-232-0753
なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。



ユハイム



1985 5・6月号

発行所 神戸市サッカー協会
神戸市中央区八幡通2-1-10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
〒651 ☎(078)232-0753
発行人および編集人 一北 四郎
神戸市灘区上野通6丁目3-12
〒657 ☎(078)861-3100

毎月1回10日発行 購読料1部50円

市御影工業 第29回兵庫県高校総体を制す



第29回県高校総体を顧りみて

60年度の高校総体は150試合に及ぶ大規模な大会となり、5月5日から、6月10日まで、県下10数か所の会場で熱戦がくりひろげられた結果、総合力に優る御影工が滝川第二を辛くも下し、8月の全国大会に駒を進めた。

予想された強豪の中に神戸甲北がよく頑張った。ベスト8入りを果し、激しい競い合いを演じた。最終的には御影工、滝川第二、北須磨、福崎がベスト4に進出し、全国総体と近畿大会との出場校を争った。御影工は1、2年生で編成された新鋭滝川第二を相手に苦戦の末勝ち、本年度優勝に輝いたが、準決勝戦で御影工と死闘をくりひろげた北須磨は、多少の気落ちもあってか、福崎に敗れ3位入賞をのがした。

本大会では神戸勢の活躍が目立ったが、最近めきめきと実力をつけ、優勝圏内に接近する西播の、福崎の活躍にも注目すべきである。個人的には御影工の内山、小村、小西、井村。滝川第二の本庄、藤田、牧野ら、特徴のある選手の活躍が目についた。

さて、約1か月の間に最大8ゲームを勝ち抜かねばならぬハードなスケジュールでは、コンディショニングにほど気を配らなければならず、監督はもとより選手個人個人の最大限の努力が必要であるが、その点今大会に上位進出を果たした各チームには、見習うべき多くのことがあったのではないと思う。3

位決定戦、決勝戦ともにマナーのよい好ゲームであったし、例年になく故障者が少なかった事も本大会を気持ちよく終える事の出来た大きな原因ではないかと思う。

近畿大会出場3校と全国大会出場の御影工業のすばらしいゲームと健闘を祈っている。

60年度兵庫県高校総体講評

60年度兵庫県高等学校総合体育大会サッカー競技は県下150校の参加により5月5日に熱戦の火ぶたを切り、6月10日尼崎陸上競技場において3位決定戦に引き続き行われた決勝戦にて御影工が滝川第二を2-1で敗り5年ぶり2度目の優勝を飾り、インターハイ出場権を獲得した。なお、3位決定戦は福崎が2-0で北須磨を破り、御影工、滝川第二、福崎の3校が7月22日より奈良県で行われる近畿大会に出場することに決った。

今大会の抽せんは新人戦のベスト8をシード校として県内150校が参加して行われたが一回戦からレベルの高い好試合も多く、シードチームが次々と姿を消し準々決勝進出チームにシード校は御影工ただ1つとなった。

準々決勝の組合せは、第1シード御影工を倒した滝川第二と前年度選手権大会代表、伊丹西を破った神戸甲北、明石北に勝った福崎と新人戦3位の豊岡に勝った三原、御影工と伊丹北、三木東に勝った北須磨と第2シード小野を破った赤塚山となり、滝川第二、神戸甲北を除くとここ数年の上位常連校が顔をそろ

えた。滝川第二は神戸甲北に順当勝ち、福崎は三原と0-0、延長でも決せず、PK戦で勝ち残り、御影工は2-0で伊丹北を敗り、北須磨も2-0と赤塚を下し、準決勝は滝川第二対福崎、御影工対北須磨の組合せとなった。準決勝、滝川第二は福崎に2-1と快勝したのに対し、御影工は北須磨GK橋本に再三のチャンスをはばまれ、0-0の延長戦でも勝利が決定せずPK戦で7-6とからくも決勝進出を決めた。

決勝戦は前半は一進一退で0-0のまま、後半1分御影工があざやかなゴールを決めて先行したが、7分にゴール前のロビングをGKがためらってハンプルしたのを滝川第二に押し込まれて同点とされた。

御影工は同点にされてやや気落ちしたため動きがぶつたが15分すぎからは相手を圧倒し、21分に溝上がGKと1-1から頭越しの巧シュートを決めて2-1とし、その後も優勢にゲームを進め、勝利をおさめた。

滝川第二は2年生以下のチームで決勝進出をはたし今後の活躍が期待されるが、黒田和生氏をコーチに迎えた積極姿勢がこんなに早く成果を上げたのは驚きである。4回戦で御影を破ったのが自信となり、以後の戦いぶりは古豪もタジタジ。1年生の加入がチームの層を厚くし、バックスの強化につながった結果と言える。

福崎はここ数年常に、上位進出をはたし強豪の仲間入りをしたが、滝川第二に対し、巧さで負けた。もっと激しい当たりと動きで力のサッカーをやれば滝川第二に十分対抗する力をもっていただけに惜まれる。

北須磨は準々決勝で赤塚山に快勝、勢いに乗って御影工にいきなり無失点でPK戦に持ち込むも敗れ、気落ちしてか、3位決定戦も敗れて、近畿大会出場を逃がした。

高校総体に優勝して

御影工業高校サッカー部監督 一北四郎
ベスト8に勝ち残ったチームでシード校は我が校だけとなったのを見て、「シメタ」と思う反面、これは何んとしても優勝しなければ意識が強く働いて、プレッシャーとなり、プレーが重苦しくなったように思った。

今年のチームは、スタートメンバー11人の全てが3年生で、2年生からのレギュラーが6名残り、かなりやると自信を持っていたが、新人戦で御影に苦杯をなめさせられ3位に終わったのがあって部員のやる気につながった。4月以降の練習試合では無敗の好調で、そのまま大会に持ちこめるかと思ったが、4回戦までは、相手を甘く見るクセがでて、まづい試合展開が目だった。対尼崎北、対伊丹北戦から本来の御影工らしさが見えはじめ、準決勝の北須磨戦は相手GKの好守に無得点となり、PK戦を勝ち抜いたのが大きかった。

決勝の滝川第二に対しては相手が2年生以下のチームだけに絶対に負けられまいと言うプレッシャーがあったが、技術、体力、戦術でも相手に上回っており、何よりも試合経験の違いで前半こそやや苦戦したが2-1となつてからは一方的ゲームとなり、久しぶりのインターハイ出場権を獲得することができた。

昭和60年度 第29回兵庫県高校総体競技結果

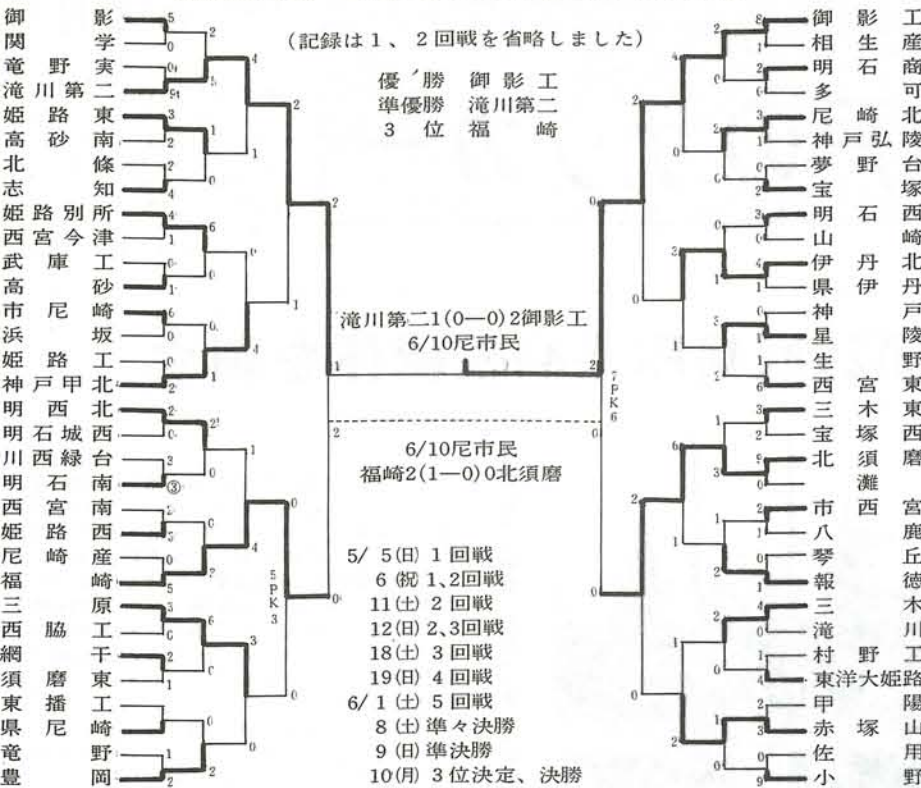
(記録は1、2回戦を省略しました)

優勝 御影工
準優勝 滝川第二
3位 福崎

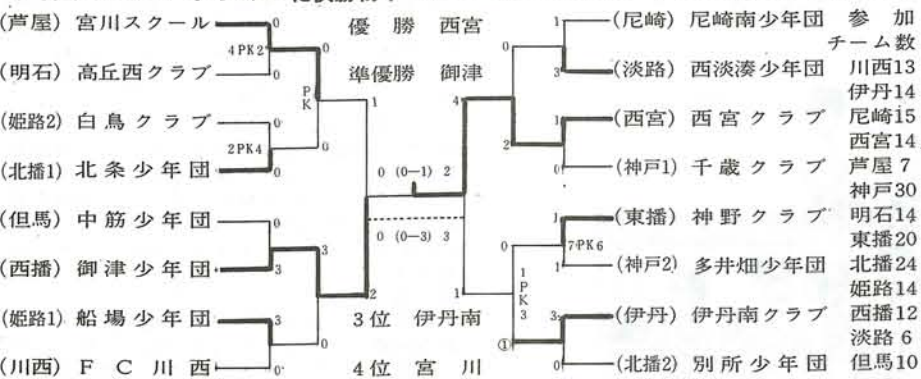
滝川第二1(0-0)2御影工
6/10尼市民

6/10尼市民
福崎2(1-0)0北須磨

5/ 5(日) 1回戦
6(祝) 1,2回戦
11(土) 2回戦
12(日) 2,3回戦
18(土) 3回戦
19(日) 4回戦
6/ 1(土) 5回戦
8(土) 準々決勝
9(日) 準決勝
10(月) 3位決定、決勝



西宮SCが県代表 御津少年団 第9回全日本少年大会兵庫県大会



(上)試合前コーチの注意を聞く西宮代表
(下)試合前コーチの注意を聞く西宮代表

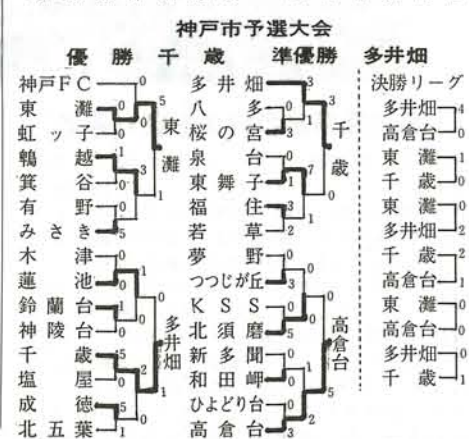
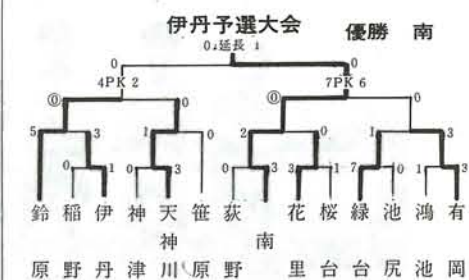
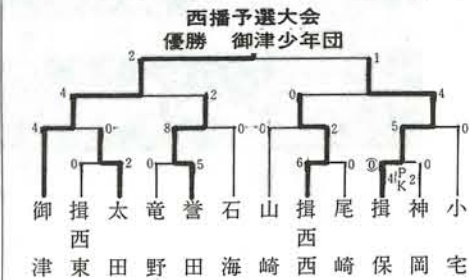
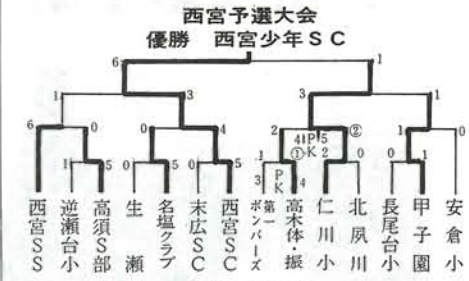


第9回全日本少年大会は、57年度から引き続き使用している姫路球技スポーツセンターで6月9日と16日の2日間行われた。60年度は北播が都市数が多く、参加チームも多

いために、又姫路が県大会の当番都市であるためにそれぞれ1チームから2チームとなつて、昨年度の14チームから16チームの決勝となった。年々応援の父兄も多く来られ、1,000人ぐらゐがスタンドで見守り、2日目、4チームになったのに、1日目とかわらないぐらゐの観衆が詰めかけた。

本大会の特徴は、1回戦で実質上の優勝戦のような千歳クラブ対西宮SCの試合があり、その試合で勝ったチームが結局優勝した。

それに続く、高丘西、神野とも今一つ得点力がなく、PR戦で負けてしまい、最近力をつけてきた御津少年団が西宮SCとの優勝戦まで勝ち進み、神戸ウインターフェスティバルの優勝も、偶然ではなかったことを証明した。兵庫県協会5種委員長 師田二郎



充実のモルテン TANGO

サッカー界の新しいスタンダードなサッカーボール

MTSAD official ball and weight molten Licensed core made in Japan

Official FIFA World Cup design

株式会社 モルテン

広島 / 東京 / 大阪 / 名古屋 / 福岡 / 札幌

日本サッカーにルネサンスは起こるか?(22)

枚方FC 近江 達

個性とドラマ

日本人の物語を見る目は、「こうなって、それからこうなって」と物語のように流れていくだけ。

吉田秀和

スポーツのゲームはドラマだ、とか、ゲームにはドラマがある、などよく言われる。ちょっとした偶然とか運命というサイコロのころがり方次第で勝敗が左右されてしまうところにドラマを感じることもあれば、選手や監督、コーチの心理の葛藤とか、虚々実々の駆け引きがドラマチックに取りあげられることもあり、ドラマと、いってもさきままだが、選手たちが彼ら自身でドラマの筋書、つまり、試合運びを考え工夫して、起承転結のあるゲームをくりひろげていくドラマ作りということになると、欧米選手はそれぞれ独自のものをもっている上、たがいに協力してゲームを作っていくという意識も強い。

だが日本選手となると、たまたまボールを追っかけてけん命に戦うという印象が強くて、ゲーム作りの内容がどうのという段階ではない。最近やっとトップクラスだけがそれらしくなってきたところである。

まず第一に、選手のレベル、それから自立度、個性、創造性などがちがう。また、もともとサッカーに限らず、彼らにとってゲームとは、我々とはちがう、そうしたものである。本物の演劇の場合は当然、原作や脚本、演出などがある。欧米でも日本でもそれは同じだが、それでも出来上ったものはちがう点が多い。私がいつも思うのは、たとえば、欧米のドラマだと、登場人物がそれぞれ過去の人生を背負っていて個性があり、めいめい自分自身の考えや反応によって対応し、それらがからみ合う結果、ドラマが展開し進行して行く。もともと、たとえそういう構成や設定がされてなくて、ごく平板に作られたものであっても、もともと彼らは民族性の違いで、役者である以前に、我々よりも充分個性的であり、めいめい社会生活を自分自身の頭脳で対処して生きているために、別段そうした演技を注文されなくても、ごく自然にそうして個性的に演じてしまうのであろうと思う。

日本の場合はそうではない。格別の力作、名作以外、普通は、役割が工員だとすると、こういうのが平均的工員だろう、商社員ならこういうのが商社員であろうといった、職業的類型、善人、悪人、親子、実生活の匂いのない二枚目、といった人間的類型が登場して、たぶん、こうなっていくだろう、こう感じるだろうという、いかにもお定まりのコースやパターンを演じてゆく。外国と逆で、まず筋書が決まらされて、人物がそこにはめこまれて。欧米のは、たとえば、AとBという人間がいて、彼らがいるために必然的にドラマが生れてくるのだが、日本だと、まずドラマがあって、その中の人物は別段AとBでなくて

はならないということではない。CでもDでも一向に構わないのである。「はじめに人間ありき」と、「はじめに筋書きありき」くらいの違いが存在する。これはサッカーでも同じで、日本のはチーム攻撃のパターンが決まっているので、それをこなせる選手でありさえすれば、AでもBでもCでも構わない。なまじつ個性性的だとかえって厄介で、むしろ個性などない方がいい。欧米だと、チームのパターンというよりも、ベレならベレがゲームを作り、今日はクライフがゲームメーカーするといった案配で、ベレが出たゲームはベレでなくてはならないし、クライフが出た限りゲームはクライフのものになってしまう。個性と自己表現そのものと言ってよい。

もともと、わが国の小説家や脚本家だって製作過程で、ある程度まで書いていくと、作中の人物たちが自然に動き出す、などよく語ってはいる。だがそれでも、でき上ったものはやはり外国物のようにはいっていない。結局、実際の日本人の国民性がそういう性質のものであるために、作品も自然そういうものになってしまうわけだ。もし個性的な人物として書きこまれていても、演ずる俳優の方が厚味に欠け影が薄いので、よほど個性の強烈な俳優でない限り難しいのであろう。こうしてまず筋書きがあって、それに人間が流れていく、流れに身を任せるという性質は、何も作中人物だけではない。F・ジョットは、日本の漫画文化という記事の中で、「日本人はぶ厚い漫画雑誌を笑ひもしないでドンドン読んでいくが、あれは不思議だ。アメリカは長篇がなく、薄っぺらは漫画本しかないが、そんな短いものでも、アメリカ人はストーリーを追わないで、一コマひとコマを丹念にゆっくり読んで、おかしければ、一人でも声を出して笑う」と面白く観察をしている。

マンガと切っても切れない近頃の若者たちは、一見かなり個性的にみえるのだが、本当は、ただ束縛を嫌い勝手気ままな生活や行動がしたいだけのことであって、何も個性的、創造的なものを望んでいるわけではないのかも知れない。

優れた個性の要求度はレベルに比例

サッカーチームのメンバー、ポジションなどを決める場合は、選手の技術、スピード、パワー、戦術的能力などをみて、レベルが上の選手から適材適所のポジションや組み合わせになるように選んでいくが、選手の個性も選考資料になる。雨とか重いグラウンドなら、軽妙な巧い選手よりも少々鈍重でも頑強なパワフルな選手の方を起用するとか、Aはこの相手は苦手でBの方が相性がいいからBを出す、といったように状況や相手に応じて選ぶこともある。サッカーではゲームの性質や交代人数の枠などのために、プロ野球でのワンポイント、リリーフ投手の起用みたいなことはまずない。だがそれでも、すでに完成された大人の選手になると、まだ技術体力などに

この連載は、雑誌サッカー・ジャーナルに連載されている枚方FCの指導者、近江達氏の随想をサッカー・ジャーナルのご好意で転載しております。
「日本サッカーの発展のためにはルネサンスにも匹敵する人間性の解放が必要である」と、近江氏はいうが……。



写真提供 上野勝彦氏

相当バラツキのある少年選手とは違って、個性がかなり重視されるようになる。とくに欧米のトッププロのように、どれを見ても一流選手という中から11人選び出すとなると、技術などは優劣をつけ難いので、問題になるのは個性ということになる。事実どの選手が出場するかによって、ゲームの勝敗や様相がガラリと変わるケースは珍しくない。誰がゲームメーカーになるかによって、タテコ、長短、どのコースにどんなパスを多用し、配合するか、どんなリズムを作り出すかが決ってくる。誰がトップかで突破や得点も変わってくる。見る側にとっては、勝敗や優勝の行くえもさることながら、そうした選手によって違う個性的なプレーの面白さ、チームメイトとの組み合わせで生れる変化の妙なども大きな楽しみである。かつての西独代表チームでゲームメーカーをオペラートにするか、ネットワーにするか、よく話題になったとき、われわれも大変興味をひかれ勉強になったものだった。個性ということになると、今のところ日本選手はどうみても個性的とは言えない。

技術や肉体的能力、判断力、アイデアなど、今ひとつレベルが低くて、個性をうんぬんできる段階に達していないこともあるけれども、最近の選手と昔の選手とを比べてみても、技術体格など今の方が優れているのに、個性はむしろ貧弱なような気がする。大人の選手だと、それぞれ大なり小なり自分自身のものをもっていて適切に外に表明できるだろうが、今の第一線の選手は年令的に若い人が多い。そのために物足りないということもあるかも知れない。もちろん、性格や考え方、感じ方など誰もが同じはずはなく、違いはあるに決まっているのだが、ここでとり上げているのは、あくまでもサッカー選手としての個性のことで、試合中のプレーでハッキリわかるほど際立った個性の違いは見受けられない。誰を見ても同じようにみえるという意味である。つづく

モンブランの “スピードサッカー”

基本のプレーを徹底的に追求し、機能性を第一に考えたサッカーシューズ

markam® & Libe/o®

親しまれるサッカーウェア younger®

MONTBLANC リアル・スポーツの追求

モンブラン株式会社

神戸・東京・福岡

リベロメイン06

標準小売価格¥9,800